平成２２年３月 経営協議会議事録

Ⅰ．日　時　平成２２年３月２４日（水）　１５時３０分～１８時１０分

Ⅱ．場　所　ＫＫＲホテル東京　「朱鷺の間」（１１階）

Ⅲ．出席者　齋藤学長，赤田，有馬，飯田，伊集院，黒木，桜田，西村，山本，北村，野波，嶋津，福島，堀，田村，菊池，河野 各委員
（欠席：井上，加賀見，竹山，茂木 各委員）
陪席者　来栖監事

議事に先立ち，学長から挨拶があった。

Ⅳ．前回経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

Ⅴ．審議事項（○外部委員，◎学内委員）

１．千葉大学学則等の一部改正（案）について
学長から，千葉大学学則等の一部改正（案）について審議願いたい旨提案があった後，北村理事から資料に基づき説明し，以下の質疑応答があり，審議の結果，承認された。

○医学部の入学定員の増加にあたって，教育体制の整備等は大丈夫か。また，国等から何らかの財政的な支援はあるか。

◎学生の収容スペースが限界であり大変厳しい。また，教育体制では，アメリカと比べると学生に対する教員数が，臨床系では３分の１，基礎系は２分の１と少ないうえに，今回の増員に対しても教員の加配は特になく，大学院や附属病院も含め受け入れ体制を検討していく。

○大学院の定員が減じている事情は何か。

◎専門法務研究科は，最初にロースクールの設置が多過ぎたため，定員割れの大学院が出てきて質の確保も問題となっている。入学定員の見直しは国からの指導であり，全国的に減じている状況である。

◎医学薬学府の先端生命科学専攻は，最近の学生定員の充足率が７割から８割程度であり，文部科学省からも以前から博士課程学生の質の確保の指導等があったため，入学定員を減じるものである。

○園芸学部の学科は７学科から４学科に改組するのか。

◎もともと３学科を４学科に改組し，平成２２年度は学年進行により３つの学科が廃止される。

２．平成２２年度計画（案）について
学長から，平成２２年度計画（案）について審議願いたい旨提案があった後，山本理事及び福島理事から資料に基づき説明し，以下の質疑応答があり，審議の結果，承認された。また，前回の経営協議会で未確定であった第二期の中期計画案の「予算（人件費の見積りを含む。），収支計画及び資金計画」に係る審議経過等について報告があ

った。
○運営費交付金の１．４％の削減は，平成２２年度限りの臨時的な措置であるにも関わらず，文部科学省から示された様式には，期間中の予算に一律に係数が掛かるよう計算式が入っているのは，非常に危惧するところである。
○倫理観を育成するための授業科目とは何か。
◎例えば，工学部であれば技術者として必要な工学倫理や薬学部であれば薬害被害者から話を聞くことにより薬剤師としての倫理感を養うなど，各学部の教員により授業を行う。
○ハーバード大学のファウスト学長によると，最近，中国や韓国の留学生に比べ，日本からの留学生が減少しているとのコメントがあったが，日本人学生の海外派遣の状況や対策はどうか。
◎全国的な傾向であり，日本の現在の経済状況や日本人の特有の気質に原因があるのかもしれない。先日の大学改革シンポジウムなどでも学生の語学力が問題として取り上げられた。本学では，大学院生等の国際学会等での研究発表を奨励したり，財政的な支援をしたりするなど本計画案にも盛り込んでいる。また，日本人学生に対して英語で講義をすることや，交換留学生を少しずつ増やしていくなどの努力をしたい。
○外国語科目の履修状況の調査や TOEIC の活用方法の点検など，外国語教育に取り組む計画としては，初期的な段階のように思える。
◎ 第一期中には TOEIC の受験を全学生に課しており，それを前提にして，自分にあったレベルの授業を受けることを可能にし，同時にやる気を起こさせるような工夫をしたい。既に，TOEIC で高得点を得た学生を表彰し，また，成績を大学院試験に加味したり，進級する際のクラスの振り分けのデータに用いたりしている学部等がある。
○工学部の学生は英語が必要となる仕事に就く可能性が高いと思われるが，TOEIC の成績はどうか。
◎工学部の学生は，全体的には比較的悪いが，成績上位の中には何人かいる。工学部では，各学科の専門科目の中に英語による授業を必修としている。その他，ネイティブ教員による授業も選択科目に用意しているが受講する学生が非常に少ない。
○サムスン電子では相当高い英語能力が求められる。学生には，就職のチャンスは日本ばかりでなく，世界の労働市場に目を向けさせ，就職するには英語力が必須であることを自覚させる必要がある。自らのニーズに結びつけて学習することにより，より効果的に英語を修得することができる。
○千葉大学のプロパー職員は，学内でどのくらいのポストまで昇進できるのか。
◎従来は，課長・事務長級までであったが，来年度から，事務組織の再編により亥鼻地区事務部を設置し，新たに事務部長ポストを置き，プロパー職員を充てる予定である。今後も少しずつ増やしていき，管理職員への登用年齢も早め，計画的な人事を行っていく。
○プロパー職員のモチベーションを上げていくためにも処遇改善は重要である。
○最初から，文部科学省による人事ポストとプロパー職員用のポストに色分けをするのではなく，能力に応じた適材適所の人事とするべきである。

最後に，学長から，第二期の中期計画については，３月１９日開催の臨時役員会に

おいて承認されていることから速やかに認可申請を行い，また，平成２２年度計画については，文部科学大臣より中期計画の認可の連絡があり次第，３月末までに文部科学大臣あてに届出を行いたいとの補足説明があった。

３．平成２２年度学内予算配分（案）について

学長から，平成２２年度学内予算の基本方針（案）及び予算配分（案）について審議願いたい旨提案があった後，福島理事から資料に基づき説明し，以下の質疑応答があり，審議の結果，承認された。

○評価の高い部局に対して総額４００万円を加算しているが，評価の低かった部局に対しては，減額しているのか。また，大学として評価反映分の総額はどうであったか。

◎本評価に向けて努力してほしいこともあり，評価の低い部局に対して特に減額配分はしていない。大学としての評価反映分は５０万円の増額であった。

○グローバルＣＯＥ間接経費の削減への対応はどうしているのか。

◎人件費分の確保も含め，直接経費で対応することとしている。

○職員給与を抑えたことにより生じた経費はどのように執行したか。

◎薬学部の移転については施設整備費補助金が付いたため，一部目的積立金として繰越しを見込んでいる。また，従来から附属病院の設備機器は割賦契約により整備していたが一括払いにより執行するなどした。

○学長裁量経費の事項として，もう少し弾力的な執行はできないのか。例えば，新たに有望な研究が出てきたときに重点的に措置することは可能か。

◎施設整備事業として計上しているのは，部局から要求のあった緊急度の高い教育研究環境の整備に係る事項としている。この他，戦略的な経費としてグローバルＣＯＥ獲得のための先行投資的な事業等にも計上しているが，現段階の予定額であり，学長のリーダーシップのもと弾力的に運用していく。

４．国立大学法人千葉大学職員給与規程等の一部改正（案）について

学長から，本年４月１日付け改正の就業規則のうち，職員給与規程，年俸制適用職員給与規程，職員退職手当規程，非常勤職員就業規則及び医員，医員（シニアレジデント）及び医員（研修医）就業規則の一部改正（案）について審議願いたい旨提案があった後，福島理事から資料に基づき説明し，以下の質疑応答があり，審議の結果，承認された。

○医員の給与があまりにも低いため，増額する必要があるのではないか。

◎医員の給与は月額約３０万円程度である。他の一般病院の医員に見合う程度に増額した場合，現在の運営費交付金の中ではとても賄えない。医員も含め人件費を抑えているところで附属病院の経営が成り立っているともいえる。全体の給与体系との関係もあり医員だけ増額することは難しく，手当等を加算するなどの方策を検討する必要がある。

５．国立大学法人千葉大学役員退職手当規程の一部改正（案）について

学長から，国立大学法人千葉大学役員退職手当規程の一部改正（案）について審議願いたい旨提案があった後，福島理事から資料に基づき説明し，以下の質疑応答があり，審議の結果，承認された。

○国立大学法人評価委員会の評価により役員退職手当の額を決定するとあるが，具体的な適用は難しく，現実的には使えない規定ではないか。

◎今後の検討すべき課題である。

６．平成２２年度資金運用方針（案）等について

学長から，平成２１年度資金運用実績報告並びに平成２２年度資金運用方針（案）等について審議願いたい旨提案があった後，福島理事から資料に基づき説明があり，審議の結果，承認された。

Ⅵ．報告事項（○外部委員，◎学内委員）

１．千葉大学学術研究支援制度実施要項（案）等について

北村理事から，千葉大学学術研究支援制度実施要項（案）等について資料に基づき説明があった。

２．平成２２年３月新卒者就職内定状況について

北村理事から，平成２２年３月新卒者就職内定状況について資料に基づき報告があった。

３．平成２２年度個別学力検査等実施状況について

北村理事から，平成２２年度個別学力検査等実施状況について資料に基づき報告があった。

４．第１回アントレプレナーシップ国際シンポジウムについて

野波理事から，３月１５日（月），１６日（火）に開催した，第１回アントレプレナーシップ国際シンポジウムの概要について資料に基づき報告があった。

５．千葉大学サイエンスパークセンターについて

野波理事から，本学が中核機関として実施する「千葉大学サイエンスパークセンター（ＪＳＴ地域産学官共同研究拠点整備事業）」の概要について資料に基づき報告があった。

Ⅶ．意見交換（自由討議：○外部委員，◎学内委員）

○第二期の中期目標・中期計画期間を迎えるにあたり，法人化の趣旨であった，大学の目標・理念や経営戦略に沿った自主的・自律的な取組みが推進されるよう，国にはより一層の支援が望まれる。

○飛び入学制度の最新の動向はどうか。

◎平成２０年度の選抜から，従来型の課題を論述するタイプⅠと新たにタイプⅡとして前期試験を課して優秀者を選抜している。今回，タイプⅡにより物理化学分野で２名の合格者を出している。

続いて，学長から，退任する各委員の紹介があり，各委員からの挨拶の後，学長から謝辞があった。

最後に，総務課長から，次回以降の経営協議会の日程として，平成２２年度第１回目として４月２７日（火）１５時から開催し，第２回目を６月中に１回程度予定しており，開催日時は後日調整したい旨の説明があった。

以　上